

わがまち

船橋陶芸室



船橋7-20-8 環八沿い大東学園西側

陶芸教室。すがた、地、色あり。私の心の作品。土ぬりから色つけ、焼きごあいまで、その一つ一つの工程に熱が入る。でき上がった作品をしげしげと見て、満点かな、30点だよ!!

備前・有田・九谷・益子

...。すがた、地、色あいのそれぞれに特色がある。世田谷区では55年に野毛の青年の家で陶芸教室は始まった。生徒の熱の入れ方がすさまじく、今年の8月に船橋陶芸室が開設された。現在10グループ200人の生徒がいる。

ちとせ 砒才2

発行：編集委員会
 編集責任者：堀江貞雄
 事務局：砒才2出張所内 (482)0343
1987.10 № 22

夏休み子どもまつり

にみた 子どもたち
 一従事者16人に聞きました—

《ダンボールみこし》
 子供らは、作り始めるとねばり強く最後までやりきったり、いろいろと工夫をこらして飾りつけをしてくれる。

《紙ヒコキ》
 「学校の工作よりおもしろいよ」と女の子が言ってくれた。ありがとう!!

《牛乳パックのボール》
 「手作り」を教えるとその楽しさに熱中する子が多い。

《竹のブンブン》
 「ぞちようたい」と言うので自分で作るのよ」と言ったら、「それならいらない」と言って帰ってしまった子。

《駒井》
 一生懸命自分で作り、よく廻ったときの嬉しそうに子供の顔が忘れられない。

《西山・吉岡》
 《三井》

《折り紙》
 昔からの「おりづる」新しい折り紙「ちょうちょう」。

《リリアン人形》
 手先が不器用というが、みんなじっくりと腰を据えて取り組んでいた。「やった!!」と嬉しそうに声をあげる子もいる。

《お手玉》
 「老人の指導でお手玉づくり。皆正座して仕上げるまで足もくささない。老人の実技に「すごい!!さすが!!」と目を輝かす。老人と子供たちの知やかな声ははずむ。

《マカロニのフロッチ》
 大人では考えも及ばない大胆な色合い。個性的な作品が今頃は胸やバックにとお嫌さ

《バルバ》
 会場の中央に、ネットをかいた巨大なビニール袋に空気を入れたバルバ。子供がそれに向ってぶつかり、登り、ふり落とされないように頑張る。

《受付》
 風船をほしがらる子が多い。今でも、お土産を牛に「ありがたう」と嬉しそうに帰った行った顔々が目に浮かぶ。

《救護》
 高学年なのに一人で采れなく親と一緒に、彼は黙って全部親が話す。迷子になっても自分の学年も名前も言えない子。「ありがたう」と言ったのは、六年生の女の子だった人とは...

10月は共同募金運動にご協力をお願いします!!



徒がいる。女性が大抵で平均年齢は50歳近いという。ほんとうに興味の世界だ。最後の仕上げともいえる「焼き入れ」のとき人は4人で、やはり数年の経験が必要とされるようだ。

この教室は、素人を中心に15人以上のグループごとに社会教育団体として登録した団体が利用できる。

また、年に2、3回、個人でも参加できる陶芸教室が開催されるので、区のお知らせにご注意を。

問い合せはII区の社会教育課「陶芸担当 (2-E)」

《本部》
 子供たちは「個性に合ったもの、面白いもの」にだけ熱中する。でも「食わず嫌い」にならないよう沢山の経験をさせたい。

《事務局》
 「夏休み子どもまつり」は青少年対策砒才2地区委員会が8月11日・船橋小学校の庭で開催したもの。その他、消防車・救急車・梯子車・電源車・白バイ・起震車等も参加してくれました。



